

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

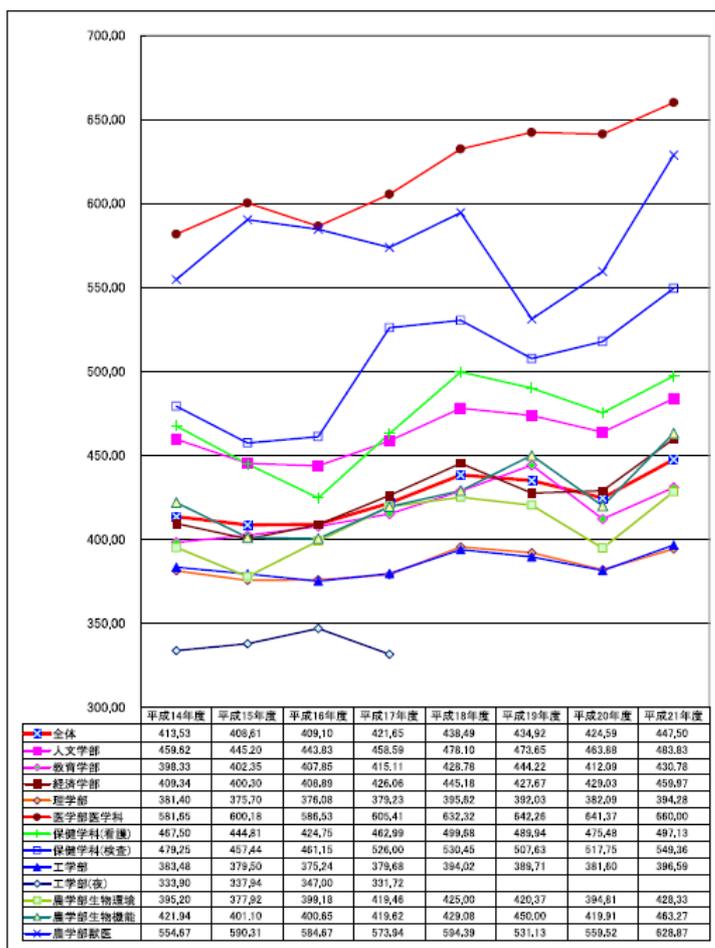
平成 22 年 6 月
山口大学

目 次

資料 1-1-1 TOEIC を利用した修学システムについて	1
資料 1-2-1 「目的達成型大学教育改善プログラム」について .	2
資料 1-3-1 修学支援システム・出席確認システム	3
資料 1-3-2 平成 20 年度 ISMS の構築&認証取得に向けた取組 .	4
資料 1-4-1 O-HARA 山口大学就職支援施設について	5
資料 1-4-2 キャリア教育について	6
資料 1-4-3 寄宿舍の整備計画	7
資料 2-2-1 山口大学若手研究者支援制度実施要領	8
資料 2-2-2 時間学研究所について	9
資料 3-1-1 地域との交流に関する取組について	10
資料 3-1-2 産学公共同研究プロジェクトについて	11
資料 3-1-3 (財)横浜企業経営支援財団との連携	12
資料 3-1-4 山口県大学共同リポジトリ:維新	13
資料 3-1-5 学術交流協定実績	14
資料 3-1-6 国立大学法人山口大学海外事務所設置要項	15

資料1-1-1 TOEIC を利用した修学システムについて

1年次第1回目TOEICスコア平均点推移グラフ



※このグラフは、当該年度に入学し、1年次最初のTOEIC試験の平均点を表す。

(出展：平成21年6月開催 山口大学教学委員会資料)

e-learning 教材メニュー

大学教育センター

大学教育機構のトップ

山口大学

[受験生の方へ](#)
[在学生の方へ](#)
[保護者の方へ](#)
[企業の方へ](#)
[地域の方へ](#)
[教職員へ](#)

トップページ

WBT 教材へのリンク

- Basic English用教材1(音声): TOEIC Bridge Practice Test(ユニット)
- Basic English用教材2(オンライン教材): TOEIC Bridge Practice Test(山口大学)
- 『TOEIC準備』自習用オンライン教材
- ネットアカデミー(学習者用)(管理者用)
- Smart-HTML教材 (『英文法徹底トレーニング』やTOEIC関係のリスニング教材など)
- ザッと英作(英作文練習用ソフト)
- 『TOEIC準備』(旧テキスト)(Part5-Part7)の音声解説
- 『英語基礎文法』自習用音声教材
- YU英語(オンライン英語学習)
- CALL(高橋・猫田担当 TOEIC準備、TOEIC指導)
- eiqodaigaku(インターネット上の高等英語教育(経済学部 武本ティモシー))
- PLGI

[共通教育](#)
[講義資料](#)
[WBT教材](#)
[FD・授業評価](#)
[全学GP等](#)
[Good Practice](#)
[分科会連絡ML\(学内限定\)](#)
[デジタル教科書案内\(学内限定\)](#)
[Webシラバス入力案内](#)
[進学支援システム](#)
[出席確認システム](#)
[授業評価システム IYOCAN2](#)
[災害時体感情報](#)
[行事予定](#)
[サイトマップ](#)

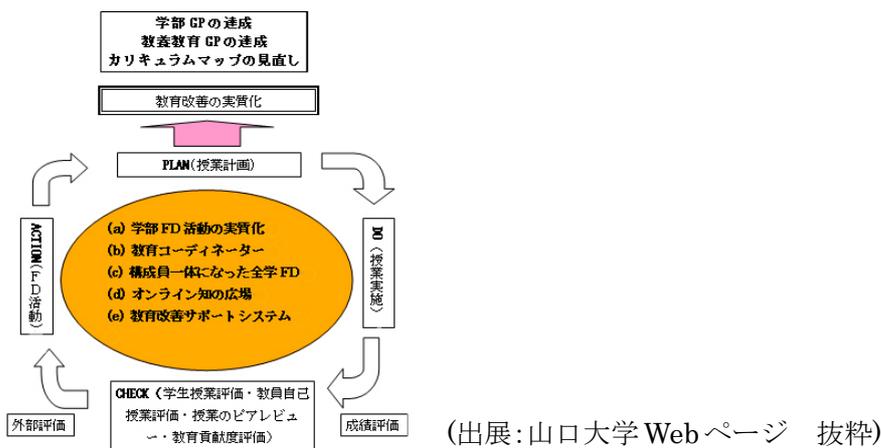
(出展：山口大学大学教育センターWeb ページ)

文部科学省「平成20年度 質の高い大学教育推進プログラム」に採択

文部科学省が本年度から募集している「質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)」に大学教育機構大学教育センターが申請した「**目標達成型大学教育改善プログラム**」が選定されました。

【取組の概要】

今回選定された「**目標達成型大学教育改善プログラム**」は、卒業時までには学生が身に付けるべき基本的な資質を具体的に記述したグラジュエーション・ポリシーや、グラジュエーションポリシーと各授業の到達目標との間の合理的・整合的な関係性を示すカリキュラム・マップ等を利用して、「教育改善の実質化」を目指すプロジェクトです。これらの手法を利用して本学の教育を改善する取組は、すでに大学教育センターを中心に今年4月の大学設置基準の改正が実施される以前から、本学が独自に取り組んできたものですが、本取組では、このような従来からの取組をさらに発展させるために、次に示す5つの重点プロジェクト(図1参照)を中心に今後2年半に渡って事業を展開する予定になっています。



教育 GP シンポジウム「目標達成型大学教育改善と山口大学における FD 活動」ポスター

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

教育GPに選定された「目標達成型大学教育改善プログラム—ラーニングアウトカムズを重視した大学教育改革の組織的取り組み—」の2年間にわたる取組の成果と課題について報告します。
また、現在、全国の大学で導入されつつある「目標達成型の大学教育改善」の課題と今後の展望について、この分野における有識者の方々に集まっていただき、関係者相互の議論を深めるためのパネルディスカッションを開催します。

日時 ● **平成22年3月6日(土)** ● **参加費無料(先着100名)**
13:00~16:20 (開場12:30)

場所 ● **キャンパスイノベーションセンター** ●
国際会議室(1階) 東京都港区芝浦3-3-6

◆プログラム◆

12:30~13:00	開場・受付
13:00~13:15	開会行事
13:15~14:15	基調講演 「目標達成型大学教育改善と大学改革」 川崎 太津夫氏 (神戸大学 大学教育推進機構教授)
14:15~14:45	報告 「目標達成型大学教育改善と組織的取り組み」 岩部 浩三 (山口大学 大学教育センター長)
14:45~15:00	休憩
15:00~16:15	パネルディスカッション 「アウトカムズ重視の大学教育改善と課題」 沖 裕貴氏 (立命館大学 教育開発推進機構教授) 川崎 太津夫氏 (神戸大学 大学教育推進機構教授) 末富 喜昭氏 (山口日産株式会社社長、当教育GP外部評価委員長) 岩部 浩三 (山口大学 大学教育センター長)
16:15~16:20	総括 小嶋 直哉 (山口大学理事(教育学生担当副学長)兼 大学教育機構長)

「目標達成型大学教育改善プログラム」の取組、また本シンポジウムの詳細につきましては、HP <http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp> をご覧下さい。

●参加ご希望の方は、裏面の申込用紙をご利用ください。2月19日(金)締切●
主催：山口大学 大学教育センター

教育GPシンポジウム
目標達成型大学教育改善と山口大学におけるFD活動

(出展：山口大学大学教育センターWeb ページ)

資料1-3-1 修学支援システム・出席確認システム

はじめに

山口大学では、学生の皆さんがパソコンの Web ブラウザを使用して、履修登録や成績確認等が行える『修学支援システム』を導入しています。このシステムでは、履修登録や成績確認の他に、シラバス閲覧、休講・補講・講義連絡等のメッセージ確認もできますので、学生生活をする上で有効に活用してください。

操作マニュアルは、http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yf_student.html に掲載していますので、そちらもご覧ください。

1. 修学支援システムの機能・利用可能時間

① 修学支援システムは、**学内・学外**からアクセス可能で、次の機能を利用することができます。

メニュー名	処理内容
履修登録 (P 6)	履修登録ができます。
履修時間割表 (P10)	履修登録した時間割を閲覧・出力できます。
成績照会 (P11)	修得科目の成績を閲覧できます。
学籍情報照会 (P13)	学生本人の学籍情報、宿所情報、保護者情報が閲覧できます。
メッセージ確認 (P15)	履修している科目の休講、補講、教員からのメッセージ確認ができます。
シラバス検索 (P16)	シラバスを検索し、閲覧・出力できます。
メール転送設定 (P18)	メッセージ、休講情報などを、学籍情報に登録したメールアドレスに転送する設定です。

② 修学支援システムの利用可能時間は、AM6:00～翌 AM3:00 までです。
(AM3:00～AM6:00 まではメンテナンスを行います。)
なお、12月29日から1月3日の間は、修学支援システムを利用できません。
これ以外の日にメンテナンスを行うときは、別途お知らせします。



(出展：修学支援システムマニュアル(学生用))

はじめに

本学では、各教員がパソコンの Web ブラウザを使用して、成績評価報告やシラバス登録・閲覧が行える修学支援システムを導入しております。このシステムは他に、履修者名簿の出力・学生へのメッセージ機能も備えていますので、授業担当教員から履修学生への休講・補講・お知らせを行うことができます。システム機能の概要は以下のとおりです。

1. 修学支援システムの機能・利用可能時間

① 修学支援システムは、**学内・学外**からアクセス可能で、次の機能を利用することができます。(ただし、成績評価報告は学内のみ)

メニュー名	処理内容
履修者名簿 (P 6)	担当する授業科目の履修者名簿(CSV、PDF)が出力できます。履修登録期間においても、リアルタイムで履修者名簿を出力することが可能です。また、履修者名簿から学生情報(メールアドレス、顔写真)が閲覧できます。
成績評価報告 (P 7)	成績入力期間に担当する授業科目の成績を入力します。直接入力と CSV 入力する 2 つの方法ができます。入力期間は、別途お知らせいたします。
シラバス登録 (P 11)	シラバス入力期間に担当する授業科目のシラバス情報を入力します。入力時期は前年度の 12 月頃です。入力期間は、別途お知らせいたします。
メッセージ確認 (P 14)	担当授業科目の履修者に休講・補講・お知らせをすることができます。
指導学生 (P 19)	教員が指導する学生について、履修・成績を照会することができます。

操作マニュアルは、http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yf_student.html に掲載していますので、ご覧ください。

② 修学支援システムの利用可能時間は、AM6:00～翌 AM3:00 までです。
(AM3:00～AM6:00 まではメンテナンスを行います。)
なお、12月29日～1月3日の間は、利用することができません。
これ以外の日にメンテナンスを行うときは、別途お知らせします。

(出展：修学支援システムマニュアル(教員用))

はじめに

山口大学では、学生は履修登録している授業科目の出欠状況を、教員は担当している授業科目における学生の出欠状況を、パソコンの Web ブラウザを利用して確認できる、『出席確認システム』を共通教育棟に導入しています。

このシステムの利用については任意のものになりますので、初回の講義で利用の有無を学生に周知していただきますようお願いいたします。

システムの機能の概要は、以下のとおりです。操作マニュアルは、http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/icregist_manual_forTeacher.pdf に掲載していますので、そちらもご覧ください。

1. 出席確認システムにおける学生の出欠席の取り方について

出席確認システムで、出欠席の状況を確認できる科目は、端末(図1)が設置されている共通教育棟で行われる授業科目に限定されます。

出席確認システムにおいて、上記授業科目の出欠席が確認できるようになるには、学生が次の2点を満たさなければ、確認することができません。

- ① 修学支援システムにて、履修登録が行われている。
- ② 共通教育棟の講義室に設置されているシステム端末に、学生証を直接かざす。

【注意】
出欠席の状況は、当該日以降に確認することができます。(当該日は不可)



(図1)
共通教育棟講義室に設置されているシステム端末
(この端末に学生証をかざします)

2. 出席確認システムの機能・利用可能時間

① 出席確認システムは、大学内のみアクセス可能になります。
機能については、以下のようになります。

メニュー名	処理内容
出席確認・修正 (P 4)	担当科目の出席確認・修正ができます。
学生の出席照会 (P9)	ログインしている教員が閲覧を許可されている学科の各学生の出席状況が確認できます。

(出展：出席確認システムマニュアル(教員用))

資料 1 - 3 - 2 平成 20 年度 ISMS の構築 & 認証取得に向けた取組

年度		作業内容
平成17(2005)年度		メディア基盤センター内にISMS構築のためのWG発足 (他大学、企業等の事例の調査研究、及び研修受講)
平成18(2006)年度	前期	センター内に ISMSプロジェクトの発足 (4月: 予算確保), ISMS事務局の発足 (9月)
	後期	構築支援コンサルタントの企画競争公募, ISMS事務局の強化: 拡大事務局会議 (12月)
平成19(2007)年度	前期	構築支援コンサルタント決定 (ITSC社: 静岡大学発ベンチャー企業) (1月)
	後期	構築支援コンサルティング開始 (2月), ITSC社による予備調査 (3月)
平成20(2008)年度	前期	構築 I [前半]: ISMS構築体制作り, 適用範囲の決定, 方針の決定 (平成18年度3月~)
	後期	構築 I [後半]: 情報資産洗い出し, リスクアセスメント手法の決定
9月24, 25日		構築 II: 内部監査準備
		構築 II [前半]: リスクアセスメント実施
10月24日		構築 II [後半]: リスクアセスメント結果を整理し, リスク対応計画を策定してISMSを導入
		構築 III [運用]: 認証機関による「予備審査」「書類審査」「初動審査」の実施, 指摘事項に対する是正措置 内部監査チームによる「内部監査」 マネジメントレビュー
		構築 III: 認証機関による「本審査」の実施 認証機関内の判定委員会による最終判定にて「合格」

【スケジュール概略】 ■ は認証機関による審査 * 裏面に用語の説明をしています。

年度	18	平成 19 年度			平成 20 年度											
		4	10	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
吉田・小串・常盤各センター	予備調査	構築 I (前半)	構築 I (後半)	構築 III 内部監査準備	構築 II (前半)	構築 II (後半)	構築 III (運用)	構築 III	5/29 予備審査	6/30 書類審査	7/29, 30 初動審査	8/8, 8/21, 22 内部審査	9/3 マネジメントレビュー	9/24, 25 本審査	運用継続	認証取得

補足説明	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) 組織が情報を適切に管理するための包括的な枠組み。技術的なセキュリティ対策だけでなく、セキュリティレベルの把握と定期的な改善を行うための人的な仕組みを含む。 ■ 情報資産 組織が保護すべき情報のこと。広義にはその管理運用に必要とされるコンピュータシステムや利用者に提供している電子メールなどのサービスも含む。 ■ リスクアセスメント 情報資産が適切に保護されているかを分析・評価するプロセス。この結果に基づき、必要な対策を計画する。 ■ 予備審査 予備的な書類の事前確認及び審査対象組織内での現地事前確認 ■ 初動審査 本審査を効果的に行うための事前現地審査 ■ マネジメントレビュー マネジメントシステムを運用した結果、組織の目的・実情にピッタリと合い、計画(意図)したおりの結果が得られるように機能しているか(方針・目標が達成できるように機能しているか)を確認し、必要に応じて改善していく活動 ■ 本審査 マネジメントシステムが適用規格に適合し、有効に稼働しているかを客観的に示す証拠と実績に基づく現地審査 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ PDCAサイクルによる継続的改善 メディア基盤センターでは、定期的に見直しを行い、受容するリスク値のレベルを下げる努力を継続的に実施する。 ■ 学内他部局へのISMS普及 メディア基盤センターの経験を、他部局のISMS構築に活かしていくことにより、全学における情報セキュリティリスクの低減を目指す。 	

(出展：山口大学メディア基盤センターWeb ページ)

資料1-4-1 O-HARA 山口大学就職支援施設について

■O-HARA 山口大学就職支援施設竣工



■O-HARA 山口大学就職支援施設が竣工

10月7日更新

このたび、吉田キャンパス内にO-HARA 山口大学就職支援施設が完成し、9月28日(月)に竣工式が行われました。この施設は、大原キャリアスタッフ九州により運営され、山口大学の学生を対象に、公務員、公認会計士、税理士、行政書士、宅建主任者、簿記1～3級の試験対策講座を開講するほか、新たな実学教育のための共同研究を行っていく予定です。竣工式には、山口大学、大原学園、新日鉄エンジニアリング(株)などの関係者約100人が出席し、テープカット、施設見学、披露パーティーなどが行われました。施設には、教室や研究室のほか、個別に講義映像が視聴できるパソコンブースを備えたVOD室、質問電話ルームが設けられ、各講座は10月1日から本格的にスタートしました。

[↑ このページのトップに戻る](#)

(出展：山口大学 Web ページ「Weekly News」2009年度)

■受講者数(平成22年2月末)

講座名	受講者数(実数)
公認会計士	3名
税理士	12名
簿記	41名
宅建主任者	5名
行政書士	2名
公務員	40名

(出展：山口大学学生支援部学生支援課調べ)

資料1-4-2 キャリア教育について

◆「平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」

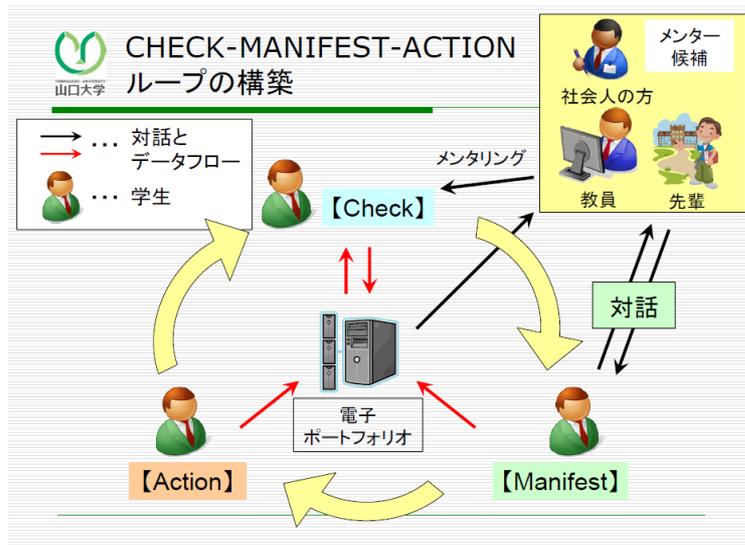
【事業の概要】

■学部 1 年次を中心とする入学間もない学生に社会人基礎力という能力指標の存在とその強化の重要性を教授する正規の講義科目を開設します。

この講義の中で産学連携して実施するプロジェクト課題を課し、履修生が社会における自らの立ち位置を認識し、以降の継続的な能力強化につながる体験を得ることのできる場を設定します。

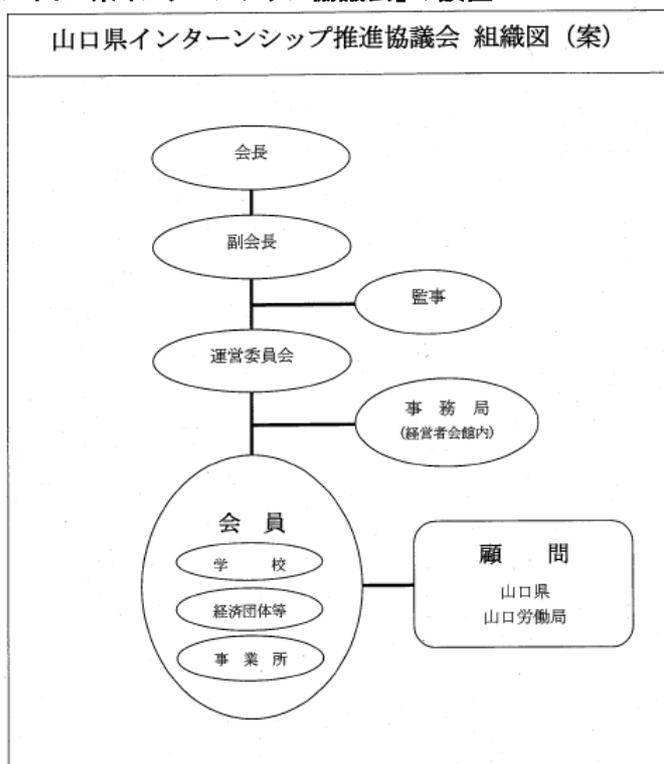
■2 年次以降の学生を対象に、社会人基礎力の自己評価(CHECK)に始まりメンタリングと能力強化宣言(MANIFEST)そして実行(ACTION)に至る一連の過程を学期進行と連動して繰り返す CHECK-MANIFEST-ACTION ループを構築・運用することで、学生の継続的な能力評価と育成を支援します。

自己評価と MANIFEST の履歴は電子ポートフォリオシステムに蓄積して管理・運用することで、学生の能力強化支援ツールの1モデルとすることを目指します。



(出展：山口大学工学部 Web ページ「インフォメーション」 2008 年 8 月 8 日から抜粋)

◆「山口県インターンシップ協議会」の設置



(出展：平成 22 年 3 月 9 日開催 山口大学教育研究評議会資料抜粋)

資料1-4-3 寄宿舎の整備計画(平成20年11月 大学教育機構)

VI. 学生寮整備計画の考え方

本学は、3キャンパスに分散しているところから、各キャンパスへ学生寮を整備することが望ましい。各キャンパスの学生数に対する収容率は、現状では吉田地区8.02%、常盤地区5.64%である。

寮生以外の学生アンケート（吉田地区）によると、41%の学生が入寮を希望しない反面、個室であれば56%近くが希望（条件付き希望学生を含める。）しているため、現在の収容率（吉田地区8%、宇部地区6%）を維持する。

現収容率から試算すると吉田地区約450戸、小串地区約100戸、常盤地区約200戸となる。

整備にあたっては、昭和55年「厚生補導施設改善充実に関する調査研究報告」に基づく新規格寮方式（個室、寮外食堂利用、光熱水料等の個室メーター設置）をとる。

また、今後、外国人留学生受入30万人計画により、確実に留学生数が増えることが予想されるため、留学生の住居確保及び日本人学生の異文化理解等を促進するため、一部の寮については留学生等との混住型とする。

VII. 学生寮の整備計画

吉田地区の学生寮は、築後40年以上経過しており耐震数値も極めて悪いため、早急に整備を行う。

小串地区は、平成21年度以降「緊急医師確保対策などによる入学定員増が予定されているにもかかわらず、学生寮が設置されていないことから、外国人留学生又は研修医を含めた学生寮の整備を行う。

常盤地区は、今年度、常盤寮B棟の改修及び常盤女子寮が新営されるが、A棟については、1部屋9㎡と狭隘のため住環境の改善を図る。また、学生数に比して寮の部屋数が少ないことから新規寮の建設を行う。

1. 吉田キャンパス学生寮整備計画

吉田キャンパスの学生寮整備は、現吉田寮北側に来年度学生寮(130人収容)を新営し、平成22年度に現吉田寮の改修、平成23年度に現榎野寮の改修を行い、学生寮の整備を行う。

年度	現施設	工事区分	完成時	収容定員	居室形式・面積	寄宿料
21	(新設)	新営	混住	130人	個室18.00㎡	(24,300円)
22	吉田寮	改修	吉田寮(男子)	197人	個室14.72㎡	(整備所要額から算出)
23	榎野寮	改修	榎野寮(女子)	102人	個室14.72㎡	
完成時				学生寮収容定員	429人	

(注) 寄宿料欄の()書きは予定寄宿料金を示す。(以下同じ)

2. 小串キャンパス学生寮整備計画

小串キャンパスは、学生寮が整備されていないことから、早急に整備を行う。

年度	区分	収容定員	居室形式・面積	寄宿料	その他
22	新設(混住)	120人	個室18~20㎡	(24,300~円)	

3. 常盤キャンパス学生寮整備計画

常盤キャンパスの学生寮は、常盤寮B棟が今年11月に改修され、平成21年3月に常盤女子寮が新営される。常盤寮A棟の改修及び新規寮については、次のとおり整備を行う。

年度	現施設	工事区分	完成時	収容定員	居室形式・面積	寄宿料
20	常盤寮B棟	改修	常盤寮B棟(男子)	48人	個室18.00㎡	16,500円
20	(新規)	新営	常盤女子寮	64人	個室18.00㎡	24,300円
22	(新規)	新営	常盤寮C棟(混住)	48人	個室18.00㎡	(24,300円)
23	常盤寮A棟	改修	常盤寮A棟(男子)	48人	個室18.00㎡	(16,500円)
完成時				学生寮収容定員	208人	

(出展：平成20年12月9日山口大学教育研究評議会資料抜粋)

資料 2-2-1 山口大学若手研究者支援制度実施要領

山口大学若手研究者支援制度実施要領

平成20年6月16日 学長裁定

1. 本制度の性格と目的

山口大学における若手研究者育成支援プロジェクトとして、基盤的研究経費の確保及び科学研究費補助金（以下「科研費」という。）採択率向上を目的とする。

本制度は科研費不採択者に対して研究経費の一部を支援し、研究環境等の充実を図ることで、その研究実績を基に翌年度以降の科研費獲得に繋げるための若手研究者支援制度（以下「支援制度」という。）である。

なお、本制度は5年間の時限により実施するものとし、時限終了時に本制度の継続の是非について検討を行うものとする。

2. 申請要件

支援制度に申請するためには、原則として前年度秋に申請済み分の科学研究費補助金（基盤研究（B）・（C）、若手研究（S）・（A）・（B）、萌芽研究）の結果が不採択となった者のうち、次に掲げる要件の全てを有するものとする。

- (1) 若手研究者（当該年4月1日現在40歳未満）の者
- (2) 前年度秋季申請分科研費不採択時の審査結果がAランクであった者
- (3) 本制度の支援を受けたことがない者
- (4) 翌年度の科研費に応募することが確実な者
- (5) 支援を受ける年度途中において転出・退職等の予定がない者

3. 申請書類

支援制度に申請しようとする者は、以下の書類を公募通知に基づき提出するものとする。

- (1) 若手研究者支援経費申請書（様式1）
- (2) 当該年度科研費審査結果通知書（写）
- (3) 申請済み当該年度科研費計画調書（写）
- (4) 翌年度分科研費申請課題の概要が分かる資料（様式2）

4. 支援経費の措置

本制度に申請のあったもののうち、研究推進戦略室の審査により、翌年度あるいは翌々年度での採択が見込められるものに対して、最長2年間（申請は各年度毎）を限度として初年度50万円、次年度20万円の支援経費を措置するものとする。

なお、翌年度において科研費が採択された場合には2年目の申請は認めないこととする。

また、支援経費の次年度への繰り越しは認めないとともに、支援を受ける若手研究者が年度途中で退職等をする場合は支援経費の全額を返還するものとする。

本制度により支援経費を措置されるのは、所属、職名、応募種目の変更等に関わらず、本学在職中1度限りとする。

本制度の採択結果については審査部署である研究推進戦略室室員を除き、本人以外には公表しないものとする。

5. 支援制度採択者の責務

支援制度に採択された者は、配分された支援経費による研究実績報告書（様式3）を翌年4月末日までに報告しなければならない。報告書の提出が無い場合及び経費の執行が不適切な場合等には、支援経費の返還を命ずる場合がある。

支援制度に採択された者は、特別な理由がない限り翌年度の科学研究費補助金に応募するものとする。

6. その他

特別の事情によりこの制度によることが出来ない場合又はこの制度によることが著しく不適當であると学長が認める場合は、別段の取扱をすることができる。

（出展：山口大学若手研究者支援制度実施要領）

資料 2-2-2 時間学研究所について

**「日本時間学会」
設立記念公開学術
シンポジウム** 入場 無料

時間学という新たな領域の確立に向けて、日本時間学会が設立されます。「時間」を共通の観点として、文系と理系、基礎理論と応用理論の枠を取り払った研究・交流が発展することを目指しています。
6月13日(土)には一般公開の特別講演・シンポジウム(予約不要・無料)が行われます。「時間」を取り巻く幅広い研究の世界に触れてみませんか。

日本時間学会第1回大会 1日目 平成21年6月13日(土) 山口大学・大学会館

10:00~12:00 日本時間学会 設立総会
一般公開の特別講演・シンポジウム(予約不要・無料)

13:30~14:20 特別講演 千葉 喜彦 先生(山口大学名誉教授)
14:30~17:30 山口大学時間学研究所主催 公開学術シンポジウム
「時間学を現代に問う」~心理学・気象学・哲学の世界から~

コーディネーター 榎村 恒一郎 (群馬県立女子大・哲学)
シンポジスト①-川 謙 (千葉大学・実験心理学)
「体験される時間の特性について」

② 青野 靖之 (大阪府立大・産業気象学)
「史料中のサクラの開花記録を用いた京都の春期気温の気候復元」

③ 青山 拓央 (山口大学時間学研究所・哲学)
「アキレスと亀:『遅さ』とは何か」

2日目 平成21年6月14日(日) 山口大学・大学会館

大会2日目は、会員による個人発表が行われます。

主催/山口大学時間学研究所
日本時間学会設立準備委員会
お問い合わせ先/TEL:083-933-5848
メールアドレス:jikann@yamaguchi-u.ac.jp
(http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp)

(出展:「日本時間学会」設立記念公開学術シンポジウムポスター)

時間学国際シンポジウム

東アジアの暦と近代化

山口大学時間学研究所では、「時間」を軸とした様々な研究活動を行い、その成果を社会に発信しています。今回は、私たちの生活においても大変身近な「暦」にスポットをあて、東アジア四ヶ国の研究者によるシンポジウムを開催します。

日時 2009年11月21日(土) 午後1時~

場所 山口大学・大学会館 入場 無料

●日程及び内容●

13:00~ 開会

13:10~13:40 講演「近代社会と時間:いまなぜ東アジアの暦か?」
時間学研究所 所長 辻 正二

13:40~17:30 シンポジウム「東アジアの暦と近代化」

シンポジスト

(日本) 中村 正 (東京平成大学現代ライプ学部教授:天文学史)
「1820年代~幕末期の機械時計使用と時刻制度」

(中国) 張 開玉 (貴州大学教授:古代中国史)
「四分術の推算と応用」

(台湾) 陳 瑞賢 (淡江大学未来学研究所長:未来学)
「今、テクノロジーが動態の時間意識を構築している
~ひとつの未来への探案」

(韓国) 崔 吉城 (東亜大学人間社会学部教授:文化人類学)
「韓国における聖なる時間の世俗化」

主催/山口大学時間学研究所
共催 ●日本時間学会
後援 ●山口県教育委員会
●山口大学大学院 東アジア研究科

お問い合わせ先 TEL:083-933-5848
メールアドレス jikann@yamaguchi-u.ac.jp
(http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp)

(出展:時間学国際シンポジウムポスター)

資料3-1-1 地域との交流に関する取組について



■ギネス世界記録を達成した学生に学長表彰

3月8日更新

昨年11月に工学部の学生11人が、工学部附属ものづくり創成センターおよび市民や子どもたちと協力し、「[ボトルで作る最も高い彫刻](#)」でギネス世界記録を樹立したことを受け、2月19日（金）に学長表彰を行いました。

表彰式では、丸本学長が学生の代表に表彰状と記念品を授与し、祝辞の中で「ギネス世界記録を達成したことは大学の広報にもつながる。夢のある楽しいものづくりに感動した。今後もチャレンジ精神を忘れないでほしい。」と学生らの快挙をたたえました。

引き続き行われた懇談会では、テレビ放映されたボトルタワー制作の様子を鑑賞した後、タワーの制作方法や記録を達成した際の感想などが和やかな雰囲気の中で話されました。学生たちは口々に、「周りの人たちの協力があってこそ達成できた。授業では学ぶことのできない人とのコミュニケーション、人とのつながりについて学ぶことができた。」と、協力してくださった地域の方々や仲間への感謝の言葉を表していました。

[↑ このページのトップに戻る](#)

(出展：山口大学 Web ページ「Weekly News」2009年度)

サイエンスワールド2009

山口大学理学部
サイエンスワールド 2009



ご来場ありがとうございました。
サイエンスワールド2009は無事終了しました。

今年のサイエンスワールドは？

- [特別企画: 博物館がやってくる!](#)
- [山口大学理学部の学生による企画-不思議な科学を体験してみませんか!](#)
- [高校生による研究発表-サイエンスセッションU-18](#)
- [科学アトラクション-理学部3スリーツアー](#)
- [夢・化学21-1日体験化学教室](#)

(出展：山口大学理学部 Web ページ抜粋)

資料 3-1-2 産学共同研究プロジェクトについて

やまぐちグリーン部材クラスターについて

地方自治体名	地域名	特定領域	中核機関	主な参画機関 (大学、公的研究機関等)	クラスター名、事業の概要
山口県	山口地域	ナノテクノロジー・材料環境	地方独立行政法人山口県産業技術センター	山口大学、山口東京理科大学、水産大学校	<p>『やまぐちグリーン部材クラスター』</p> <p>山口県では、平成15年度に「環境産業マルチパーク構想」を策定して、地球環境と共生する環境産業の創造拠点を形成することとし、16年度以降、地域の大学と県内外の企業の参画の下、知的クラスター創成事業（第1期）や都市エリア産学官連携促進事業（一般型）等に取り組み、LED等光技術などを基盤とした次世代産業の創出に向けた取り組みを進めてきた。この結果、産学公連携体制の構築や、研究インフラ整備、人材育成、研究成果の事業化といった面で成果を挙げてきた。</p> <p>山口県においては、こうした従来の取組成果を生かしつつ、中長期的に連続的なイノベーションの創出と関連産業の成長・集積が期待できる領域において、グローバル競争力を有するシーズと、グローバル展開可能な産業競争力を有する地域内外の企業との協働のもと、研究開発、事業化、人材育成等におけるシナジー効果を目指すといった観点から、クラスター形成構想の見直しを行った。その結果、地域の強みである素材型企業群を核とし、今後世界的に大きな成長が期待できる環境低負荷・高付加価値型の部材分野を重点領域とする「やまぐちグリーン部材クラスター」の形成を、今後のクラスター形成基本構想とし、県の重点取組事業として位置づけた。</p> <p>知的クラスター創成事業（グローバル拠点育成型）は、上記構想の中核事業として位置づけられるものであり、山口大学、山口東京理科大学の世界最高水準の結晶成長・制御技術に基づく研究開発の推進、国際競争力を有する地域主要企業等からなる戦略的アライアンスの構築とジョイントベンチャー等による事業化推進、国際的な技術・情報に関するネットワークハブの形成等を進める。</p> <p>事業の推進にあたっては、山口県高度技術産業集積本部（本部長：山口県知事）のリーダーシップの下、中核機関である山口県産業技術センターのマネジメントを行い、地域の大学・参画企業等が連携しながら、本事業を柱として構想実現に向けた諸事業を実施し、産学の人材、資金、情報等の資源が持続的・自立的に循環し、連鎖的なイノベーションを創出する世界レベルの「知の拠点」と、省エネ・省資源型高機能部材に係る「グローバル供給拠点」に向けた取り組みを推進する。</p>

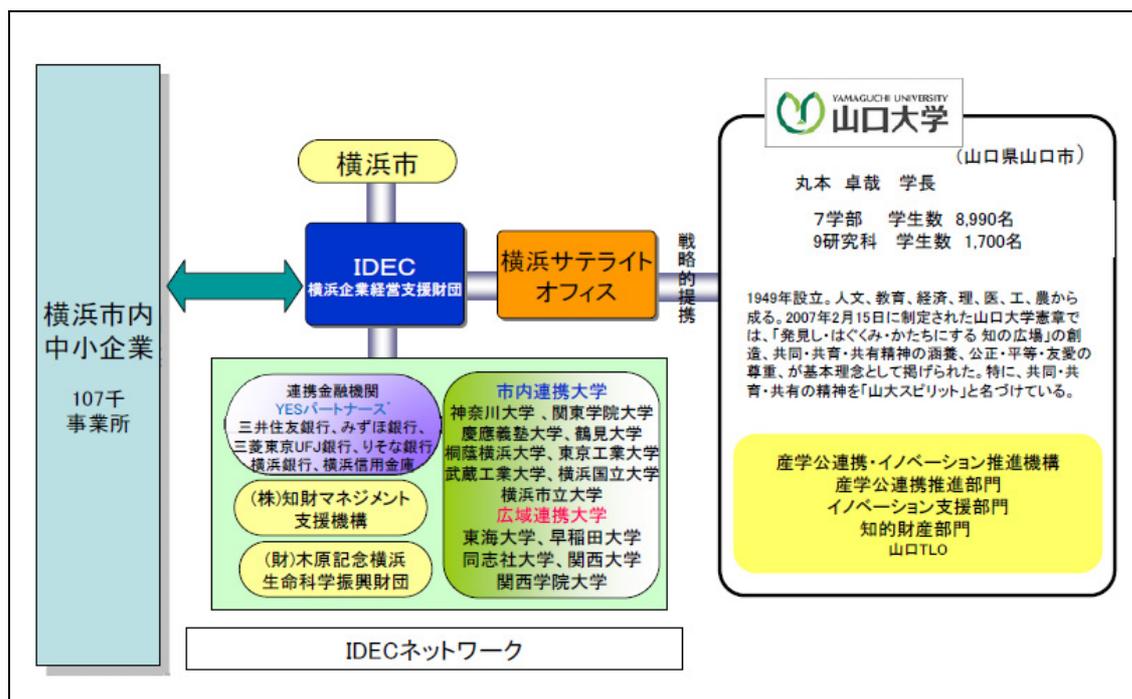
(出展：文部科学省 Web ページ抜粋)

やまぐちイノベーション創出推進拠点について

地域	拠点名	拠点の概要
山口	やまぐちイノベーション創出推進拠点	省エネ・環境・マテリアル技術分野に焦点を絞り、明確な出口戦略のもとで事業化を目指す産学官共同研究プロジェクトを強力に推進することを目指す拠点。

(出展：(独)科学技術振興機構 Web ページ抜粋)

資料 3-1-3 (財)横浜企業経営支援財団との連携



(出展：山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 Web ページ「トピックス」2008年10月16日)



■長州ファイブと横浜開港150周年記念フォーラム～
ヨコハマとやまぐち・日本の未来のために～

9月7日更新

8月26日(水)、宇部市内のホテルで、「長州ファイブと横浜開港150周年記念フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、昨年の10月に本学と(財)横浜企業経営支援財団が産学連携協定を締結し、その実質的な連携に向けてのキックオフイベントとして開催されました。

オープニングでは、約400人の出席者が見守る中、シルクハットをかぶり当時を思わせる姿で丸本学長と清水同財団理事長が固い握手を交わし、その後、映画「長州ファイブ」の監督五十嵐匠氏による映画制作にまつわる講演などが行われました。後半は、宇部市・横浜市の企業関係者や本学工学部長、同財団の理事らによる「ヨコハマとやまぐち・連携の未来」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、「大学はもっと情報発信を欲しい」、「大学が頑張れば地域も活性化する」などの意見が出されました。また、会場の外では、本学図書館による長州ファイブ展示などが行われ、フォーラムを盛り上げました。

今後は、9月に横浜市内で現地企業に本学の研究テーマを紹介するほか、11月には、横浜の企業が本学工学部および山口県内の企業を訪問し、情報交換をする予定です。

[↑ このページのトップに戻る](#)

(出展：山口大学 Web ページ「Weekly News」2009年度)

山口県大学共同リポジトリ

Yamaguchi prefecture area Scholarly Hoop of Integrated Navigator 山口県大学図書館協議会

維新

横断検索

参加大学のリポジトリページ

山口県大学共同リポジトリについて

山口県大学図書館協議会の事業として、山口県域の大学図書館等と連携し、学術機関リポジトリを共同で構築しています。なお、本共同構築事業は、平成20-21年度国立情報学研究所の委託を受けたものです。
* 左上の検索窓から、参加機関のすべての登録データを検索できます。

お知らせ

2010年 5月 7日 山口大学が横断検索可能になりました。
2010年 4月23日 東亜大学が参加しました。
2009年12月9日 宇部工業高等専門学校が参加しました。
[維新] 2009年10月28日 正式公開しました。

関連サイト

山口県立大学	下関市立大学	徳山大学
梅光学院大学	山口福祉文化大学	下関短期大学
宇部工業高等専門学校	東亜大学	山口大学

NII次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業
[ShaRe\(Shared Repository -シェア-\)](#)
[デジタルリポジトリ連合\(DRF\)](#)

公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

TOKUYAMA UNIVERSITY
徳山大学

梅光学院大学
BAIKO GAKUIN UNIVERSITY

山口福祉文化大学

下関短期大学

宇部工業高等専門学校
Ube National College of Technology

東亜大学
UNIVERSITY OF EAST ASIA

YUNOCA
山口大学学術機関リポジトリ

Copyright(C)2008-2009 山口県大学図書館協議会

(出展：山口県大学共同リポジトリ Web ページ(<http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/CrossSearch/>))

資料 3-1-5 学術交流協定実績

●大学間協定

機関名	国名	締結日
ブラビジャヤ大学	インドネシア	2008.4.15
ガジャマダ大学	インドネシア	2008.10.14
ボゴール農科大学	インドネシア	2010.3.25
ソウル市立大学	韓国	2009.12.21
昌原大学校	韓国	2010.2.10
ソウル大学	韓国	2010.2.11
亜州大学校	韓国	2010.3.8
梨花女子大学校	韓国	2010.3.8
群山大学校	韓国	2010.4.26
農学研究機構 (ARDA)	タイ	2008.8.27
東海大学	台湾	2009.9.30
逢甲大学	台湾	2009.9.30
大葉大学	台湾	2009.9.30
静宜大学	台湾	2009.9.30
陽明大学	台湾	2009.9.30
教育訓練省 (MOET)	ベトナム	2009.3.30
ダナン大学	ベトナム	2009.9.17

●部局間協定

機関名	国名	学部名	締結日
吉林大学中日联谊病院	中国	医学部	2009.9.25
正修科技大学 管理学部・人文社会学部	台湾	経済学部	2010.1.14
国立台湾大学 医学部	台湾	医学部	2009.4.1
ダッカ大学 公共管理学部	バングラデシュ	経済学部	2008.9.22
セントラルフロリダ大学	アメリカ合衆国	経済学部	2009.1.9
ニュージーランド作物・食物研究所	ニュージーランド	農学部	2008.9.3

資料 3 - 1 - 6 国立大学法人山口大学海外事務所設置要項

国立大学法人山口大学海外事務所設置要項

平成 22 年 3 月 1 日
学 長 裁 定

(趣旨)

第 1 条 この要項は、国立大学法人山口大学（以下「法人」という。）が海外に設置する事務所（以下「海外事務所」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 法人に、留学生に関する業務、山口大学（以下「本学」という。）と外国の研究機関等との共同研究及び学術・教育交流の推進並びに本学の情報発信等を目的として、海外事務所を置く。

(名称及び設置場所)

第 3 条 海外事務所の名称及び設置場所は、別表 1 に掲げるとおりとする。

(職員)

第 4 条 海外事務所に、次の職員を置くことができる。

一 事務所長 1 人

二 その他職員 若干人

2 前項第 1 号の事務所長は、学長が指名した者をもって充てる。

(業務)

第 5 条 海外事務所は、第 2 条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

一 優秀な留学生の確保に関すること。

二 留学生同窓会組織の運営に関すること。

三 研究機関等との共同研究の推進に関すること。

四 研究者によるプロジェクト調査及び研究者交流の支援に関すること。

五 本学の広報活動に関すること。

六 その他海外事務所の目的を達成するために必要な業務

(管理運営)

第 6 条 海外事務所の運営は、事務所長が行うものとし、事務所長を置かない場合にあっては、国際・社会連携担当学長特別補佐が行う。

2 海外事務所の重要事項については、国際戦略本部会議の議を経るものとする。

(事務)

第 7 条 海外事務所に関する事務は、総合企画部国際・社会連携チームにおいて行う。

(その他)

第 8 条 この要項に定めるもののほか、海外事務所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成 22 年 3 月 1 日から施行する。

別表 1

名称	設置場所
山口大学 北京国際連携オフィス Yamaguchi University International Collaboration Office, Beijing	中華人民共和国 北京市 北京師範大学内
山口大学 山東国際連携オフィス Yamaguchi University International Collaboration Office, Shandong	中華人民共和国 山東省済南市 山東大学内
山口大学 バリ国際連携オフィス Yamaguchi University International Collaboration Office, Bali	インドネシア共和国 バリ州デンパサール市 ウダヤナ大学内
山口大学 ジョグジャカルタ国際連携オフィス Yamaguchi University International Collaboration Office, Yogyakarta	インドネシア共和国 ジョグジャカルタ特別州ジョグジャカルタ市 ガジャマダ大学内
山口大学 台湾国際連携オフィス Yamaguchi University International Collaboration Office, Taiwan	台湾 彰化（しょうか）県 大葉大学内

(出展：国立大学法人山口大学海外事務所設置要項)